

大豆のうね間かん水を行いましょう！

梅雨明け後、降雨は少なく、高温の日が続いており、今後も高温・少雨の傾向が続くと予想されています。

大豆は開花期～登熟期に多くの水を必要とし、水は子実肥大期まで必要です。水不足になると落花や落莢による減収につながります。

【うね間かん水のポイント】

- 水不足により、葉が裏返り白く見える、または、7日以上雨が降っていない場合は「うね間かん水」を行いましょう。
- 中耕培土栽培ではうね間、密播栽培では明渠の肩を超すぐらいまで、通水します。(→排水溝のみの通水では、「うね」の中央まで水分補給できません)
- 長時間かん水すると大豆に悪影響がありますので、ほ場全体に水が行き渡ったら、直ちに水尻の板をはずして、速やかに排水して下さい。



◎送水制限などで十分な用水の確保が難しい場合は、ほ場を分け、数日かけて徐々に入水して下さい。

◎生育が遅れている場合は、本葉5～6葉期ごろになってから、「うね間かん水」を行い、生育を促進しましょう。

農作業中はこまめな塩分・水分補給や休憩など、熱中症対策を行いましょう！